

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立以来の「誠実・努力・奉仕」の校訓をもとに、地域に根差した教育を推進し、地域に信頼され、地域とともに成長する人格の育成をめざし、以下の点に重点をおく。

- 【全校】
- 1 規律ある生活態度と高い学習意欲により地域社会に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成をめざす。
 - 2 高い志を持ち総合知を獲得するため意欲的に学習し、自律しモラルある生活をおくりつつ誇りを持って生き抜くことができる人材の育成をめざす。
 - 3 心身ともに健康、明朗でたくましく、他者を理解し「知・徳・体」のバランスのとれた人材の育成をめざす。
- 【体育科】
- 1 将来のトップアスリートはもちろん、スポーツの特性を理解し、生涯を通して積極的に行動できる人材の育成をめざす。
 - 2 さまざまな体験を通して、積極的に企画・立案でき、行動力のあるリーダーの育成をめざす。
 - 3 スポーツを通して人間力を磨き、広い視野を持って人材育成を図ることができる指導者としての基礎的素養を身につける。

2 中期的目標

- 1 自信をもてる確かな学力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実
 - (1) 次期学習指導要領を研究し、各教科の「つきたい力」を明確にしたうえで計画的な授業研究により授業力を向上させる
 - ア 各教科において授業改善にむけて授業研究活動を行う。学校内外の先進的な実践を研究し、公開授業や研究協議により研究成果を共有し、生徒の学力向上を図る。平成30年度学校経営推進費で整備したプロジェクターを活用し授業改善を図る。
※授業アンケートの「興味関心が高まった」(H27:76.5%、H28:80.0%、H29:80.7%)で2020年度まで毎年増加させ90%以上をめざす。
 - イ 各授業で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現をめざす活動を中心に据え、現代的な諸課題への対応力の育成を図る。
※自己診断(教職員)の「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」(H27:69.3%、H28:58.3%、H29:46.8%)で2020年度まで毎年上昇させ80%以上をめざす。
 - ウ 習熟度別少人数展開授業(数学)の授業内容を検証し、「問題発見、解決能力」「体験から学び実践する力」の育成など他の教科でも実践を検討し指導方法の改善を図る。
※授業アンケートの「知識技能が身についた」(H27:76.8%、H28:81.5%、H29:82.0%)で2020年度まで毎年増加させ90%以上をめざす。
 - (2) 本校生の学力の実態や大学入試改革の動向を把握し、授業を補完する補習、講習などにより生徒個々に必要な学力を向上させる
 - ア 夏期学習会、冬季集中講座を参加しやすく拡大し、自ら進んで学習する態度や自分の学習を見直し振り返る力をつけさせるとともに進路実現に必要な学力を獲得させる。
※実施時期、場所、内容を検討し、2020年度まで毎年増加させ各40名以上の参加者を目標とする。(H28参加:夏期27名、冬季18名/H29参加:夏期21名、冬季62名)
 - イ 教育産業による基礎学力調査を活用し、学力の推移や得意不得意分野の分析などを踏まえて、学習計画や学習指導に活用する。
※結果別の補習を継続し、毎学期成績下位層の人数を減少させる。
 - ウ 学校生活の中での短い時間を有効活用し、学習に向かえるよう、自習スペースを整備し、朝学習会、定期考査前学習会への支援体制を構築し基礎学力の向上を図る。
※3年間で計画的に英語の外部試験を受験できるようサポート体制を構築する。
※欠点保有者の数を毎年度5ポイント減らす。
 - (3) 学年進行に応じた適時の進路指導を行い、夢を抱かせ、志を高く持たせ、生徒個々に合った進路実現を保障する。
 - ア 進路指導部と校内の各組織が連携し総合的な学習の時間を活用するなど、自分の将来像を明確にイメージし生徒が自ら積極的に進路開拓できるような進路指導を展開する。
※就職希望者は毎年内定率100%を続ける。自己診断の進路指導の活用度2020年度まで毎年増加させ80%以上をめざす。(H27:75.2%、H28:77.9%、H29:79.6%)
 - イ 進学希望者にはセンター試験活用入試、一般入試までの受験を勧め、講習等の支援体制を整備するとともに大学入試改革の動向を研究し情報提供する。
※2020年度までに4年生大学への進学希望者の60%以上が一般入試を受験するよう指導する。(センターH28:78名 H29:77名、一般入試H28:144名 H29:約160名受験)
※2020年度までに国公立と難関私大合格者150名以上、センター試験100名以上受験をめざす。(関関同立産近甲龍合格者H27:74名、H28:129名、H29:69名)
- 2 計画性のある人権教育と統一感のある生徒指導
 - (1) 人権尊重の精神を育み、他者を理解できるよう3年間で「つきたい力」を明確にした上で、人権教育を計画的に実施する。
 - ア 3年間で「同和問題」「在日外国人問題」「コミュニケーション」「障がい者問題」「LGBT」「統一応募用紙と違反質問」について必ず1回以上学習する。
※自己診断:「人権意識が高まった。」(H27年度80.2%、H28年度77.7%、H29年度80.8%)で2020年度まで毎年増加させ90%をめざす。
 - (2) 高校生活の基本である基本的生活習慣の確立と自主的、自律的な行動ができるための生活指導を充実させる。
 - ア 統一感と一貫性のある生活指導によりモラルと規範意識を醸成させる。
※自己診断:「規律を守り、モラルを持って行動している」(H27年度94.3%、H28年度:94.5%、H29年度:95.0%)で2020年度まで毎年95%以上をめざす。
※遅刻数はH26年度が約3500件、毎年15%減らし2020年度には1500件以下をめざす。
 - (3) 校内における教育相談体制を更に充実させ、生徒、保護者への周知を徹底し、生徒や保護者が困ったときに活用できる組織とする。
 - ア 教職員による生徒情報の共有を促進しスクールカウンセラー等を活用したケース会議や教員研修を実施し、さまざまな事象にすばやく対応できるよう組織力を向上させる。
※自己診断:「学校は相談しやすい環境が整っている。」(H27年度:54.5%、H28年度:67.4%、H29年度:65.6%)で2020年度に80%以上をめざす。
- 3 夢と志を持つ生徒を支援できる学校の魅力の向上
 - (1) オーストラリア Stルークス高校との連携を学校全体の取り組みとなるよう工夫し異文化理解教育を推進する。
 - ア 短期留学をはじめとする相互交流の意義、目的に沿った活動により、学校全体で受け入れ、本校生徒全員の国際理解教育に資するものとする。
※学校全体、全校生徒が交流活動を行えるよう生徒が提案する新たな交流機会を工夫する。
 - (2) 生徒会活動を活性化させ学校行事や部活動の充実により達成感を持たせ、愛校心あふれる学校づくりを進める。
 - ア 学年進行により行事を伝統化し、主体性と協調性をはぐくみ、生徒が主体となる学校行事の企画・運営により、自信をつけさせ、人間力を向上させる。
※自己診断:「学校行事に積極的に取り組んでいる。」(H27年度83.2%、H28年度:83.5%、H29年度:88.5%)で2020年度まで毎年増加させ90%以上をめざす。
 - イ 部活動の意義、目的を共通理解し、集団活動の成果を高めながら学習にも傾注させる。
※部活動加入生徒の欠点保有者数を前年度比較で毎年減少させる。
 - (3) 生徒会の活動を学校内外に発信し、地域清掃や地域貢献活動を活発に行い地域から愛される摂津高校とする。
 - ア 「あいさつ運動」「地域清掃活動」「防災活動」「ボランティア活動」などの奉仕活動により奉仕の精神を涵養する。
※自己診断:「地域交流、地域清掃に参加できた」(H27年度49.2%、H28年度45.8%、H29年度51.8%)で2020年度まで毎年増加させ70%以上をめざす。
 - (4) 広報活動を充実させ、地域からの信頼を得る。
 - ア 本校生の活動をHPに掲載するとともに、ポスターなどを作成するなど、地域社会に信頼され、本校進学を志す中学生に向けての広報活動をより一層推進する。
 - イ 学校内外で実施する学校説明会の見直しを図りながら、「はりたい学校」としての本校の取り組みを理解したうえで本校進学を志す中学生の増加をめざす。
※新入生に調査し、学校説明会に参加したことがあるという割合を2020年度まで毎年増加させ70%以上をめざす。
- 4 体育科の充実に向けた一層の取組み
 - (1) 生徒が在籍する3年間での成果と効果を検証し、体育科設置10周年に向けた方針を決め、カリキュラムに反映させる。
 - ア 体育科の教育活動により「つきたい力」が備わっているかを検証し、専門科目としてのカリキュラムをブラッシュアップする。
※教科において独自の授業アンケートを工夫し、自信と誇りを持つ生徒の割合を学年進行で増加させる。(3年生「スポーツ概論」の授業肯定率 興味関心 H29年度95.0%)
 - (2) 地域との連携により生徒の渉外力等のマネジメント力を育むとともに体育科の魅力を広報し、中学生アスリートのめざす学校となる。
 - ア 「スポーツ総合演習」での取り組みを学校内外に発信し、パフォーマンス課題による課題解決力の獲得と地域への発信により達成感や自信を獲得できるようにする。
※授業アンケート:「スポーツ総合演習」の「興味関心が高まった」「知識技能が身についた」で2020年度以降も毎年90%以上の肯定率を維持する。(3年生「スポーツ総合演習」の授業肯定率 H28年度 興味関心93%、知識理解95%、H29年度 興味関心90.0%、知識理解90.0%)
 - イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携などにより、生徒のマネジメント力と自己肯定感を高め、地域からの信頼を高めるとともに小中学生の「あこがれ」を創出する。
※自己診断:3年生体育科「学校生活は充実している」で2020年度以降も毎年90%以上の肯定率を維持する。(H28年度91%、H29年度89.3%)
- 5 健全な職場環境の整備

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
学校の教育活動に対する肯定率の前年度との比較 【保護者】 ①学校生活の充実 91%→92% ②学力保障 69%→75% ③生徒指導 89%→88% ④進路指導 87%→88% ⑤教育相談 75%→71% ⑥いじめ 79%→79% 【生徒】 ①学校生活の充実 87%→85% ②学力保障 85%→85% ③生徒指導 71%→68% ④進路指導 80%→81% ⑤教育相談 66%→64% ⑥いじめ 77%→77% 【教職員】 ①学校生活の充実 91%→92% ②学力保障 68%→92% ③生徒指導 74%→79% ④進路指導 77%→82% ⑤教育相談 62%→84% ⑥いじめ 78%→89% ⑦教育活動改善 49%→67% ⑧学校改善 43%→68% ※多くの項目で評価が向上したが、学習意欲の喚起や学力保障、教育相談、学校行事など、評価が伸びていない項目の改善が課題。	第1回 平成30年5月30日(水) 平成30年度学校経営計画について ・「授業＝覚える＝点を取らせる」ではなく「授業＝考える」に。先生方が一人一人考えることで生徒も変わっていくと思う。「先生が考えてもらう」その仕掛けを考えてもらいたい。 第2回 平成30年10月31日(水) 体育館の補修計画について ・体育科がある学校なので、迅速に補修してほしい。 学力等について ・自分を表現できない生徒が多い。学力とは比較できない。ぜひコミュニケーション能力をつけてほしい。 第3回 平成31年1月30日(水) 学校教育自己診断について ・教職員の意識に顕著な変化が見られる。経営改善が進んでいる様子が見て取れる。次年度も現在の取り組みを進めてもらいたい。 学校経営計画について ・めざす学校像は具体的で分かりやすくなった。計画の変更については了承する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自信をもてる確かな学力の育成と夢や希望の実現に向けた進路指導の充実	(1) 各教科の計画的な授業研究による授業力の向上 ア 学力向上につながる授業研究活動 イ 生徒の現代的課題解決型学力の育成 ウ 習熟度別少人数展開授業の研究 (2) 生徒個々に必要な学力を向上させる補習、講習 ア 集中講座による希望進路への学力獲得 イ 学力、学習状況の把握と向上策の検討 ウ 自主学習のための環境整備 (3) 学年進行に応じた進路指導により生徒の進路実現を保障する ア 学年と進路部の連携による進路指導 イ 大学進学希望者への支援体制の強化	(1) ア 生徒の学力向上を目的とした、専門職としての教員の力量形成をめざし授業研究を行う。そのため、先進事例を研究するため、実践校に出向く、文献研究などその成果を伝達するなどの方法で情報共有を図る。 イ 授業力向上PTが組織の中核となって、授業研究活動を推進する。研究内容を全体研修の場で共有できるよう計画する。 ウ 現在数学科で実施している習熟度別少人数展開授業の成果、効果および課題（ICTの整備活用など）を校内で共有し他教科での可能性を検討する。 (2) ア 夏期学習会（3年生）、冬季集中講座（2年生）の成果、効果を高める工夫、改善を行い、自ら進んで学習する力と見通しを持って学習する力を獲得させ進路実現につながるものにする。 イ 教育産業による基礎学力調査や英語学力調査を活用し、学力の推移や得意、不得意分野の分析等を踏まえて、学習計画立案の参考となるよう担任、教科担当者によるアドバイスが受けられるような体制を確立する。 ウ 自主学習のための時間と場所を確保する (3) ア 進路指導部と校内各組織が連携し、総合的な学習の時間、ロングホームルームなどを活用し、主体的に進路開拓できる力を計画的につけていく。 イ 進学希望者には、センター試験、一般入試までの受験を勧め、そのための講習等による支援体制を整備し、入試改革の動向を組織的に研究し、研究の成果を全校に情報提供できるようにする。	(1) ア 授業アンケート「興味関心が高まった」85% (H29: 80.7%) イ 自己診断「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」60% (H29: 46.8%) ウ 授業アンケート「知識・技能が身についた」85% (H29: 82%) (2) ア 各講座共に40名以上の参加者数を目標とする。H29: 夏21名、冬62名 イ 成績下位層の人数を学期ごとに減少させる。 ウ 成績上位者の人数を学期ごとに増加させる。 欠点保有者を毎年度減らす。 H28: 66名 H29: 68名 (3) ア 就職希望者は毎年100%内定 自己診断「進路指導の活用度」80% (H29: 79.6%) イ 4年生大学進学希望者の60%以上が一般入試を受験 (H29: 46.5%。ただし短大・専門学校などすべて含む)	(1) ア 授業アンケート「興味関心が高まった」81.6%△ イ 自己診断「主体的、協同的な学習活動を取り入れている」74%◎ ウ 授業アンケート「知識・技能が身についた」83.5%△ (2) ア 夏72名、冬67名◎ イ 成績下位層人数4名○ ウ 成績上位者人数37名○ 欠点保有者数63名○ (3) ア 就職希望者100%内定◎、自己診断「進路指導の活用度」81%○ イ 4年生大学一般入試受験者率48.2%△
2 計画性のある人権教育と統一感ある生徒指導	(1) 人権尊重と他者理解のための人権教育 ア 人権課題の整理し3年間の計画的な指導とする (2) 基本的な生活習慣の確立と自主自立の精神の涵養 ア 生活指導によるモラルと規範意識の醸成 (3) 相談体制の充実 ア 生徒情報の共有促進とケース会議による組織力の向上	(1) ア 人権教育推進委員会の主導により、全体計画に基づき系統的に各人権課題の学習を実施し、生徒が主体的に学習な取り組みを工夫する。 (2) ア 校内での落ち着いた生活態度は確保できているが、主体的にモラルや規範意識に基づいた生活、行動となるよう全校集会、学年集会等による全体指導と事象ごとの個別、グループへの指導を一貫性をもたせて効果的なものとなるよう工夫する。 (3) ア 生徒情報に関する連絡会を毎週開催することにより、教職員の生徒情報の共有を促進し、SC等を活用したケース会議や研修会を行うなど、教職員の生徒の変化を感じ取る力や、さまざまな事象にすばやく対応可能な組織力を向上させる。	(1) ア 自己診断「人権意識が高まった」90% (H29: 80.9%) (2) ア 自己診断「規律を守って行動」95% (H29: 95%) 遅刻数: 1500 (H29: 1643件) (3) ア 自己診断「学校は相談しやすい環境が整っている」80% (H29: 65.6%)	(1) ア 自己診断「人権意識が高まった」82%△ (2) ア 自己診断「規律を守って行動」94%△ 遅刻数: 1400件○ (3) ア 自己診断「学校は相談しやすい環境が整っている」64%△
3 夢と志を持つ生徒を支援できる学校の魅力の向上	(1) 学校間連携による異文化理解教育の推進 ア 新たな交流機会の創出 (2) 学校行事と部活動の機能の向上 ア 達成感を味わい、自信をつけさせる学校行事の伝統化 イ 部活動の成果の向上と学習への傾注 (3) 生徒会活動による地域貢献と情報発信 ア 奉仕の精神を涵養する生徒会活動 (4) 広報活動の充実と地域からの信頼獲得 ア 生徒の活躍の広報と地域への情報発信 イ 学校説明会の充実と入学(受験)希望者への情報提供 (5) 防災教育の充実	(1) ア St ルークス校との連携を持続可能な連携となるよう内容を整理し、外部機関との連携や活用を含めて再編成する。今年度の交流から検討する。 (2) ア 学年進行により行事を伝統化し、生徒が主体となる学校行事の企画・運営の体制によりマネジメント力を獲得させ自信をつけさせる。 イ 部活動の意義、目的を教員と生徒が共通理解し、活動の成果を高めながら学習にも傾注させる。 (3) ア 「あいさつ運動」「地域清掃活動」「防災活動」「ボランティア活動」などの奉仕活動により奉仕の精神を涵養する。 (4) ア 本校生の活動をHPに掲載するとともに、ポスターなどを作成するなど、地域社会に信頼され、本校進学を志す中学生に向けての広報活動を推進する。 イ 学校説明会、オープンスクール、部活動見学会の機能を整理し、中学生や保護者のニーズに対応できるものとする。学校紹介の映像を全面リニューアルして、最新の情報を提供できるようにする。 (5) ア 避難訓練を工夫し、生徒の防災意識を高める。	(2) ア 交流した生徒の事後アンケートにおける肯定率80% (H29: 85.0%) (2) ア 自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」90% (H29: 72.0%) イ 部活動ごとに意義、目的をHPで公開して活動の広報を行う (H29: 18部で情報公開) (3) ア 自己診断「奉仕活動に参加できた」70% (H29: 52%) (4) ア メールマガジンの登録者80% (H29: 約70%) イ 1年生へのアンケート「説明会は役立った」70% (H29: 73.8%) (5) 自己診断「防災意識が高まった」70%以上 (H29: 66.1%)	(2) ア 交流した生徒の事後アンケートにおける肯定率80% (H29: 85.0%) (2) ア 自己診断「学校行事に積極的に取り組んでいる」87%△ イ ブログで積極的に公開○ (3) ア 自己診断「奉仕活動に参加できた」46%△ (4) ア メールマガジンの登録者80% (H29: 約70%) イ 1年生へのアンケート「説明会は役立った」76%○ (5) 自己診断「防災意識が高まった」72%○
4 体育科の充実に向けた一層の取組	(1) 成果、効果の検証とカリキュラム反映 ア 検証活動とカリキュラムの改善 (2) 地域連携と体育科の魅力の広報 ア 地域と連携したパフォーマンス課題への取り組みの発信 イ 地域の総合型スポーツクラブとの連携強化と生徒のマネジメント力の向上	(1) ア 生徒、卒業生へのアンケート等を活用し、これまでの体育科の教育活動を振り返り、カリキュラムの改善に役立てる。また、専門家を招聘して、より専門的、探求的で高度な取り組みとなるよう工夫する。 (2) ア スポーツ総合演習において、外部の有識者を招いて課題解決型の学習活動を展開し、地域と連携した企画を実施、広報活動までのパフォーマンス課題の解決に向けた取り組みとする。 イ 地域の中学校や総合型スポーツクラブ等との連携により生徒のマネジメント力や自己肯定感を高め、本校の施設や教員を活用した地域交流活動により体育科の魅力を発信していく。	(1) ア 授業アンケートで「スポーツ概論」の興味関心、知識技能獲得において肯定率を学年進行で高め、3年生では90%をめざす。(H29: 91.3%、93.8%) (2) ア 授業アンケートで「スポーツ総合演習」の興味関心、知識技能獲得において肯定率を学年進行で高め、3年生では90%をめざす。(H29: 92.5%、95%) イ 自己診断: 体育科3年生の「学校生活の充実」90%以上 (H29: 89.3%)	(1) ア 授業アンケート「スポーツ概論」の興味関心、知識技能獲得の肯定率96.2%◎ (2) ア 授業アンケート「スポーツ総合演習」の興味関心、知識技能獲得の肯定率95.8%◎ イ 自己診断: 体育科3年生の「学校生活の充実」80.5%△
5 健全な職場環境の整備	(1) 職務内容の精選と時間外労働時間の縮減 (2) 仕事の相互支援体制の確立と管理職からの声かけによる職場環境の改善	(1) 将来構想委員会の機能を活用し、職務内容の精選を図り、業務量を減らし、時間外労働時間を縮減する。 (2) 教職員相互の支援体制をつくり、管理職からの声かけや、指導助言により職場環境の向上を図る。	(1) 時間外勤務月間80時間を越える教職員をなくす。 (2) ストレスチェック職場環境評価において昨年度のデーターを改善する。	(1) 時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数45%減少◎ (2) ストレスチェック職場環境評価において昨年度のデーター改善○